

# 土砂災害について

---

令和6年7月31日

国土交通省 近畿地方整備局 河川部

# 土砂災害警戒情報の発表基準変更について

兵庫県土木部砂防課

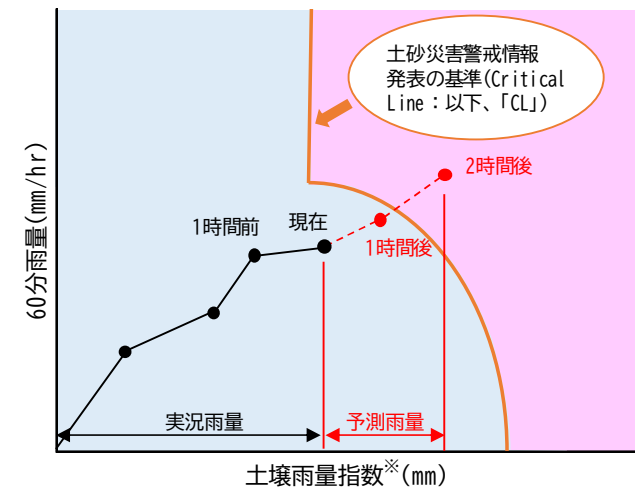
# 基準の変更について

平成26年8月豪雨等の近年の大雨や土砂災害実績を反映させる等、精度向上のため、現基準[平成25年3月～]の見直し検討を実施(令和4年11月～令和6年3月)

## <土砂災害警戒情報とは>

- 土砂災害の危険度が高まった際に、県と気象台が共同で発表する市町単位の防災情報⇒(警戒レベル4相当)
- 市町長が避難指示を発令する際の判断や住民の自主避難の参考

防災気象情報		警戒レベル	市町の対応	住民の行動	状況
大雨特別警報(土砂災害) (気象庁)		5	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保!	災害発生 又は切迫
~~~~ 警戒レベル4までに必ず避難 >~~~~					
土砂災害警戒情報 (県・気象庁共同)		4	避難指示	危険な場所から 全員避難	災害の おそれ高い
大雨警報(土砂災害) (気象庁)		3	高齢者等避難	危険な場所から 高齢者等は避難	災害の おそれあり
大雨注意報 (気象庁)		2	-	自らの避難行動を 確認する	気象状況 悪化
早期注意情報 (気象庁)		1	-	災害への心構えを 高める	今後気象状況 悪化のおそれ

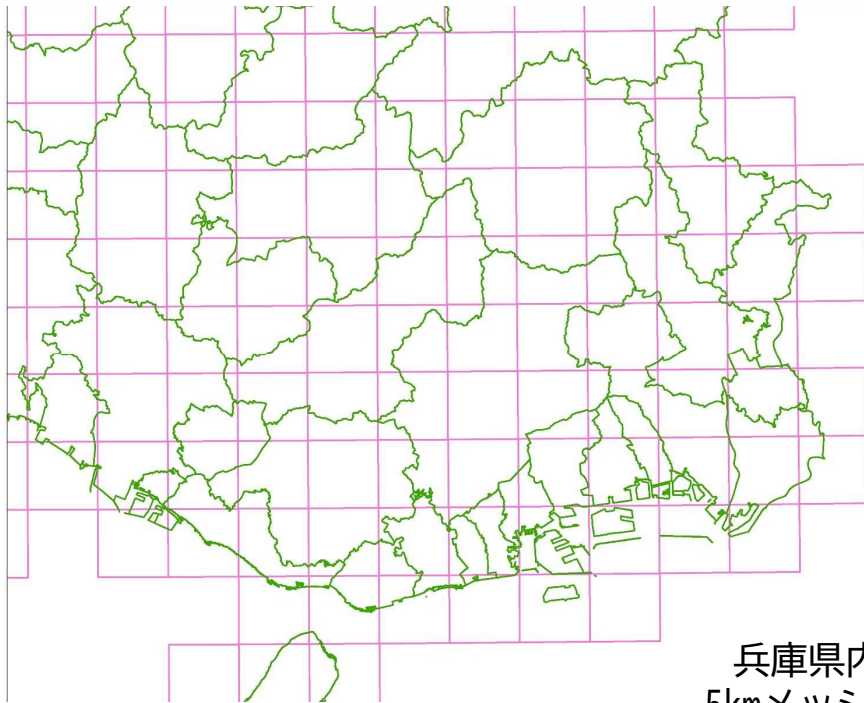


※降った雨が土壌中にどれだけ溜まっているかを指数化したもの

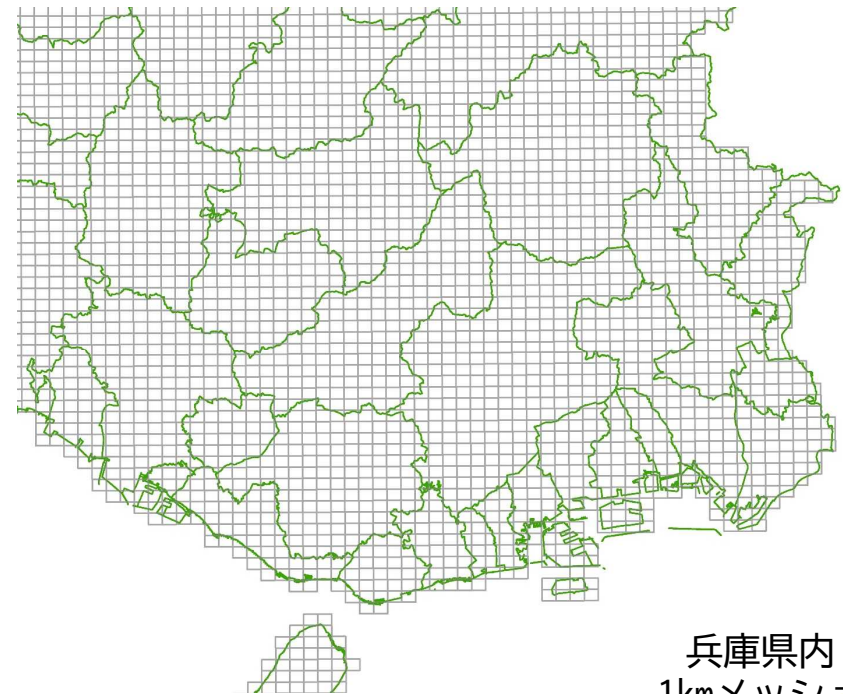
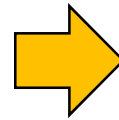
## 見直しのポイント①

5kmメッシュで設定している基準を1kmメッシュでの基準に細分化

現行の5kmメッシュ単位から1kmメッシュ単位への細分化で、地域特性（降雨・土砂災害実績）をより細かく反映した基準となる



兵庫県内  
5kmメッシュ  
352個

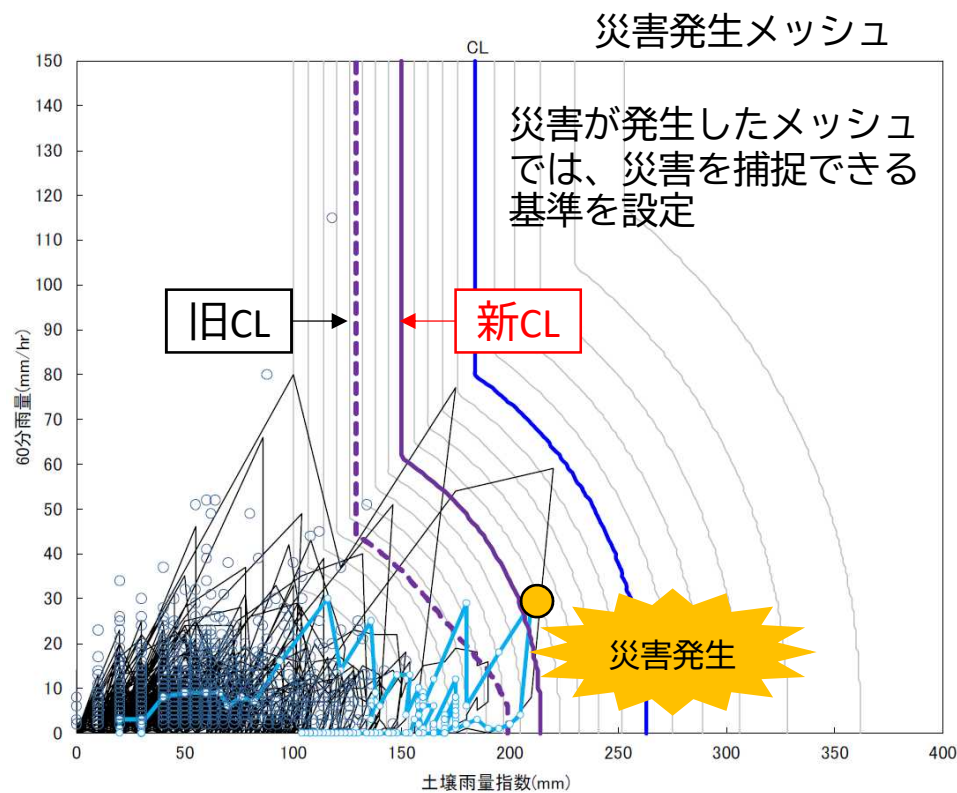
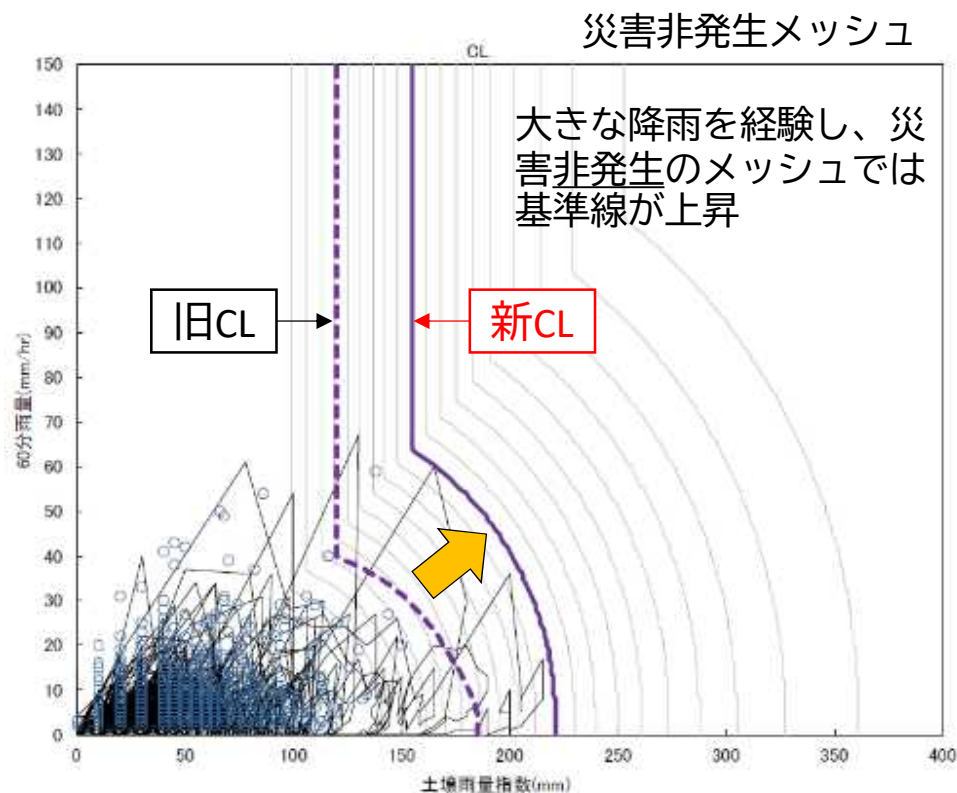


兵庫県内  
1kmメッシュ  
8,269個

## 見直しのポイント②

### 最新の降雨データや土砂災害実績に基づいたCLに見直し

- 現行の基準は平成23年9月までの降雨データ  
⇒新基準は令和3年12月までの降雨データを反映
- 平成26年8月豪雨、平成30年7月豪雨等の近年の土砂災害発生実績を基準に反映



## 見直しのポイント③ 除外メッシュの設定

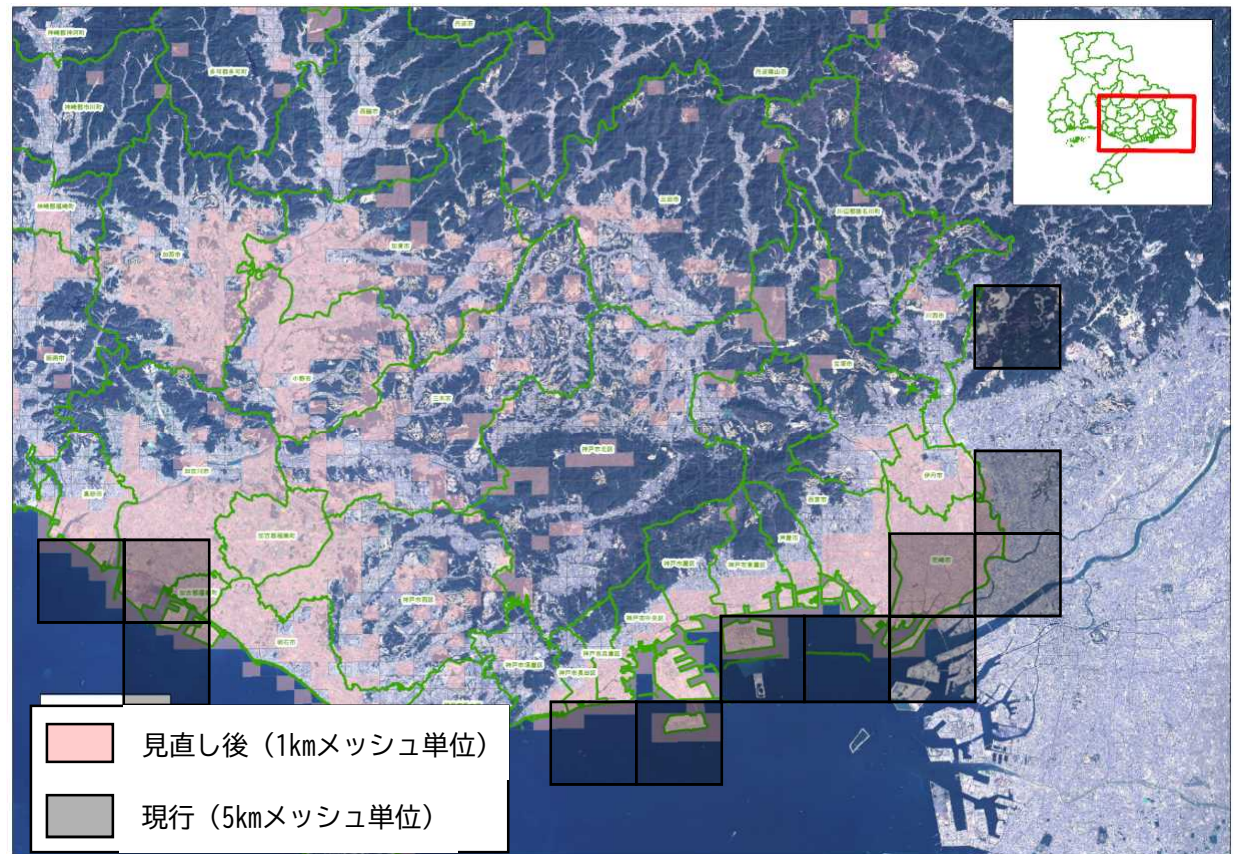
山間部等の人家のないエリアや、都市部等の土砂災害のおそれがないエリアについて、1kmメッシュ単位で除外メッシュを設定

⇒除外メッシュには土砂災害警戒情報基準を設定しない（判定の対象外）

### <除外メッシュの定義>

下記のいずれも含まない1kmメッシュ

- ・ Y区域（急傾斜地の崩壊）
- ・ Y区域（土石流）の上流域
- ・ 山間部の国道、県道
- ・ 山間部の観光資源
- ・ 山間部の避難所

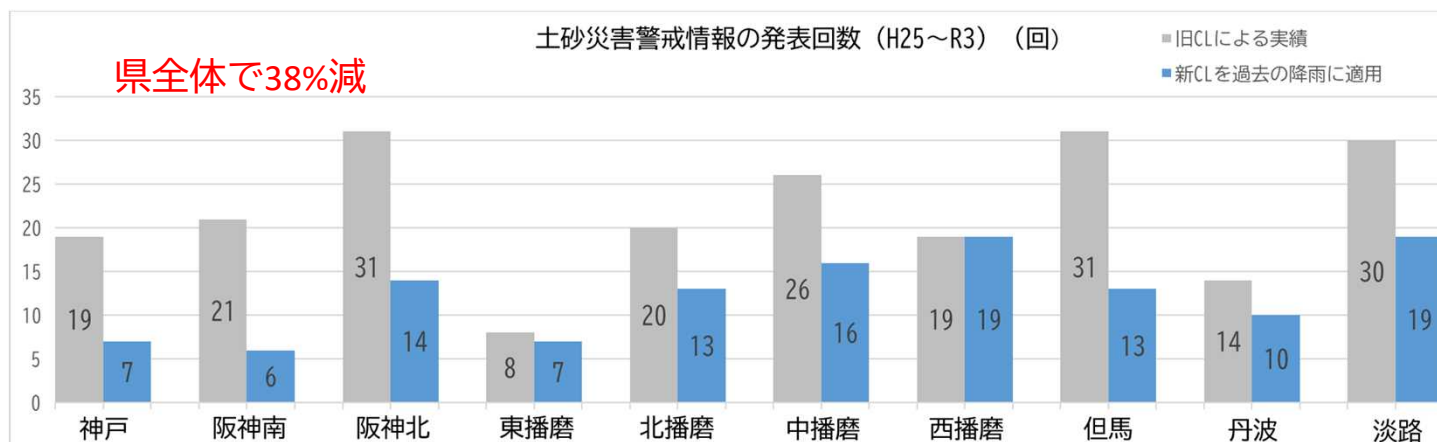


## まとめ

- ・見直しの結果、土砂災害警戒情報の精度向上が図られ、よりの確な危険度情報の提供が可能になります
- ・土砂災害警戒情報が発表された時、崖の近くや谷の出口など土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、速やかな避難をお願いします

### <参考>

- ・H25～R3の9年間で土砂災害警戒情報を延べ220回発表
  - ・見直しにより捕捉率※は100%を維持したまま発表回数は136回に減少（38%減）
- ※土砂災害が発生したときに、土砂災害警戒情報を発表していた事例の割合



- 全国各地で発生した土砂災害に関して、都道府県等からの要請により、土砂災害専門家を派遣し、警戒避難や応急・恒久対策の考え方等について技術的助言を実施。
- 令和6年度は5月26日に発生した和歌山県の土砂災害(地すべり)と7月1日に発生した滋賀県の土砂災害(土石流)への対応のため、土砂災害専門家として国土技術政策総合研究所及び土木研究所の職員を現地に派遣。

## 7月1日発生 滋賀県米原市伊吹 土石流

- 滋賀県からの要請
- 対応期間：7/4（ヘリによる状況調査）
- 対応職員：近畿地整1名
  
- 対応期間：7/9（現地での技術的助言）
- 対応職員：国総研2名、土木研究所2名
- 対応結果：  
現地にて被災状況を確認後、警戒体制や応急・恒久対策について技術的助言を実施。



## 5月26日発生 和歌山県古座川町平井 地すべり

- 和歌山県からの要請
- 派遣期間：6/13（現地での技術的助言）
- 派遣職員：国総研1名、土木研究所3名
- 派遣結果：  
現地にて被災状況を確認後、警戒体制や応急・恒久対策について技術的助言を実施。

